



アレマ隊員インタビュー

(平成22年7月～平成23年2月)



— 仙台市環境局 —

※このインタビュー記事は平成22年7月から平成23年2月にWebサイト「みんなのアレマコミュニティ」に掲載されていた記事を編集したものです。

目次

第1回	上林 昌昭さん：(株)ホンダカーズ宮城中央台原店	1
第2回	津田 祐樹さん：Green Bridge Project(グリーン・ブリッジ・プロジェクト)	2
第3回	米澤 信治さん：(株)共和電業	3
第4回	佐藤 幸紀さん：宮城県宮城広瀬高等学校 野球部	4
第5回	佐藤 文男さん・笑子さん：岩切iD倶楽部	6
第6回	早川 勉さん：株式会社日立製作所東北支社	7
第7回	(株)竹中工務店・(株)竹中土木・(株)竹中道路 東北支店の皆さん	9
第8回	佐藤 豊子さん：仙台たばこ販売協同組合	11

「アレマ」ってな～に？

「アレマ」とは、ポイ捨て行為に驚いて思わず言ってしまう言葉。

仙台市では、ポイ捨てを見て「アレマ～」と驚き、ごみ拾いをするによって

「ポイ捨て反対！」を表明する人たちのことを「アレマ隊」と呼んでいます。

「アレマ活動」は、「**拾う**」「**数える**」「**考える**」、身近な場所で、いつでも、だれでもできる、ごみ拾い活動なのです。

✧ アレマ隊 3つの誓い ✧

1. わたしたちは、「ポイ捨て」を「見て見ぬふり」は決してしません。「アレマ！」と驚きます。
2. わたしたちは、家族や恋人や友人に決して「ポイ捨て」させません。
3. わたしたちは、アレマ隊の名誉にかけて、ごみの散乱のない快適なまちづくりを進めることを誓います。



仕事前のアレマ活動で、心身のウォーミングアップ!

アレマ隊員紹介レポート、記念すべき第1回目は(株)ホンダカーズ宮城中央 台原店の上林さんです。訪問した日は、とても良いお天気。お店の大きな窓から光がさんさんと入ってきて、白い床が美しく輝いていました。

編集部: こんにちは。今日はよろしくお願ひします。とてもきれいなお店ですね。床がピカピカに光って、鏡みたい!

上林さん: ありがとうございます。掃除にはこだわりがあって、時間をかけているんです。

編集部: 清潔感をとても大事にされているんですね。アレマ活動も、掃除へのこだわりからなのですか?

上林さん: もととは、会社の地域貢献活動の一環として始めました。

編集部: 大変だと感じることはありますか?

上林さん: 日曜日の朝、少し早めに会社に来ることでしょうか。それから、前の週にごみ拾いをした道に、またごみが落ちているときにはやはり…。

編集部: そうですね。それは残念ですね。でも、やりがいもあるのではないのでしょうか?

上林さん: はい。通りすがりの方々が「おはようございます」「ごくろうさま」と声をかけてくださるときは嬉しいですね。地域の方々と笑顔で言葉を交わす機会はあまりないですから。

編集部: お仕事の前に、爽やかな気持ちになれますね。

上林さん: そうですね。気持ちがリフレッシュします。体を軽く動かすので、いい準備運動にもなっています。

編集部: アレマ活動には、そういうメリットもあるんですね。では最後に、まだアレマ隊に入っていない方への勧誘メッセージをお願いします。

上林さん: はい。皆さんも積極的に参加して、仙台の街をピカピカにしましょう!

編集部: ありがとうございます。仙台の街もこのお店のようにピカピカになるよう私達も努力していきたいと思ひます。



(株)ホンダカーズ宮城中央
台原店
営業 チーフ
上林 昌昭さん

プロフィール

山形県出身。車が好きでカーディーラーに入りました。

(株)ホンダカーズ宮城中央 台原店のごみ拾いスタイル!

「きれいな街づくりに貢献するアレマ隊を目指して」



毎週、日曜日の朝、就業時間の1時間くらい前から台原店近辺のごみを拾っています。10人前後で、30~40分くらいの間、大通り沿いなど、ごみが多いところを中心に手分けして活動します。軍手をはめて、ごみ袋を持って、火ばさみなどでごみを拾うというシンプルなスタイルです。ごみは、ビニール袋や、ボトル、缶、たばこの吸い殻などが多いですね。ときどき草むしりもしています。

きれいな街づくりに貢献したいと思ひ、仙台まち美化サポート・プログラムに参加して9年以上経つので、自然体で取り組んでいます。終わった後、拾った量やめずらしいごみなどについて、同僚と報告し合うのも楽しいです。

津田 祐樹さん Green Bridge Project(グリーン・ブリッジ・プロジェクト)

アレマ活動で、楽しい地域交流!

Green Bridge Projectは、学生が中心となって、エコをキーワードに五橋地域の街作りを進めている団体です。毎月第三金曜日に「五橋地域一斉清掃活動」を実施しています。今日は事務局の「三陸おさかな倶楽部」におじゃましました!ビルの一隅にある可愛らしいお魚屋さん。夕方だったので、お客さまが次々といらっやって、忙しそう…

編集部: こんにちは。お忙しい時間帯だったのではないのでしょうか。申し訳ありません。

津田さん: 大丈夫ですよ。店内に人がたくさんいて、すごい繁盛店みたいな気分を味わえています(笑)。

編集部: 石巻のご出身ということですが、常連さんも多くて、もうすっかりこの土地の人ですね。

津田さん: この店を始めるときは新参者でしたので、どうしたら地域の人たちと仲良くなれるか、いろいろ考えました。それで、みんなでごみ拾いしてみたらどうかかなと思って、Green Bridge Projectで「五橋地域一斉清掃活動」を始めたんです

編集部: そうだったんですね。「地域の人たちと仲良くなろう」という視点から始まったとは…。ちょっと意外でした。ごみ拾いをして良かったことはありますか?

津田さん: どなたでも参加OKなので、いろんな方たちが参加してくださって楽しいです。参加者はお子さんからご高齢の方まで幅広いですし、CSR(企業の社会的責任)の一環として参加される企業の方も多いです。この活動は3年続いています。長く続けていると、こんなふうに取り上げていただいたりして、皆さんが関心を持ってくださるんだな、と感じてうれしいですね。

編集部: 大変だと感じることはありますか?

津田さん: そんなに大変なことはありません。しいていえば清掃活動の当日、朝6時に携帯のサイトをアップするくらいかな。雨が降っていると実施できないので、中止するかどうかをお知らせしてるんです。

編集部: 携帯電話のサイトで実施を確認できるというのは便利ですね。今後のビジョンのようなものはありますか?

津田さん: もっと地域の方々に参加していただいて、いい交流の場にしたいと思います。ボランティアセンターのご高齢の方も多くなってきましたが、学生さんたちも、夏休み期間などに参加してほしいですね。

編集部: ごみ拾いで顔を合わせると、年齢や職業など関係なく、自然な交流が生まれますよね。では、最後に、まだアレマ隊になっていない方へのメッセージをお願いします。

津田さん: ごみをみんなで拾うことは街をきれいにする事の啓蒙になると思います。とはいえ、Green Bridge Projectの場合は、ゆる〜い感じでやっていますので(笑)、気軽に参加してほしいです。

編集部: ありがとうございます。誰でも参加できるというのが、楽しそう。素敵な出会いもあるかもしれませんね(ワクワク)!



Green Bridge Project
(グリーン・ブリッジ・プロジェクト)

津田 祐樹さん

プロフィール

宮城県石巻市出身。宮城大学卒業。三陸おさかな倶楽部店長。手にしているのは、Green Bridge ProjectのオリジナルTシャツです。

Green Bridge Projectのごみ拾いスタイル!

「誰でも参加OK!気軽なアレマ活動のすすめ」



毎月第三金曜日の朝、8時に五橋公園に集まって、始まりの挨拶からスタート。地域のイベント情報などをお知らせしたりもしますね。参加者は、だいたいいつも、80人くらい。適当に5班くらいに分かれて、チームリーダーを決めて、北目町や荒町などのごみを拾って五橋公園に戻ってきます。早めに帰らなければならない方は、範囲がせまいところやごみが少ないコースに入ってもらったりして、途中で帰るのもOK。気軽にやっています。ごみ拾いの場ではあまり話をしませんが、その後、情報交換をしたりして交流が広がって、新しいイベントの話が持ち上がったたりすることもあります。



アレマ活動で、意識改革!

アレマ隊紹介レポート第3回目は、(株)共和電業さん。電気設備工事などを行う会社です。ごみ拾いをする時に、ちょっとした工夫をしているとのこと。

編集部：こんにちは。今日はよろしくお願いいたします。早速ですが、こちらではごみ袋ではなく、バケツを持ってごみ拾いをされているそうですね。

米澤さん：ごみ拾いを続けていて、もっとごみ拾いをしやすい方法はないだろうか、とみんなで考えたんです。バケツは持ちやすいし、それに分別するのも、とても便利なんです。ガソリンスタンドで不要になったオイルが入っていた缶を無料でいただいたものなんですよ。

編集部：ごみ袋をたくさん使うと、ごみ袋自体がごみになってしまうこともありますものね。拾ったごみを分別しているということですが…。

米澤さん：分別したものによっては買い取ってくれるところもあるんですよ。リサイクルできるものを資源として分別することでごみの量が減り、ごみの処理にかかるお金も節約できます。（※注）

編集部：歩道はきれいになるし、ごみの処理にかかる費用も軽減されるし、いいことばかりですね。逆に、大変なことはありますか？

米澤さん：はじめは恥ずかしかったですね。道路沿いなので、何をやっているのか車を止めて見に来る方もいらっしゃいました。後日、知り合いから「あの日、ごみを拾っていただけろう」と、冷やかされたりもしたね(笑)。でも、今は、そういうことも気になりません。

編集部：ごみ拾いをはじめたきっかけは？

米澤さん：仙台市のまち美化への取り組みに協力したいと思って始めました。当社では、社員同士が仕事以外で交流できるイベント等を大事にしています。ごみ拾いも、その一つですね。

編集部：ごみ拾いで交流が深まる。素敵ですね。これまで続けてきた中で、社員の皆さんに変化はありましたか？

米澤さん：環境について、全員の意識が深まってきたと思います。今年の夏の暑さはひどいものですが、地球環境が悪化しているせいではないでしょうか。それから、周囲をよく観察するようにもなりましたね。日頃から何に対しても問題意識を持ち、「ビジネスと結びつかないだろうか」と考えることで、仕事に関するいいアイデア・新しい提案が出てくるようになりました。

編集部：社員のみなさんが知恵を出し合ってより良い仕組みを作り上げているのですね。とても勉強になりました。編集部も、ぜひ見習いたいと思います！

(※注)編集部より

仙台市環境局によると、ポイ捨てされているごみは汚れていて、リサイクルに適さないため、分別する必要がないそうです。今回取材させていただいた(株)共和電業さんは、日頃の事業活動に伴って発生する多量のごみを、事業ごみの処理ルールで適切に分別・処理されています。拾ったごみも事業ごみとして分別し、リサイクルできるものは適切な処理をして、買い取り業者に引き渡しているとのこと。



株式会社 共和電業
代表取締役
米澤 信治さん

プロフィール

宮城県多賀城市出身。趣味は釣りとお酒。

(株) 共和電業のごみ拾いスタイル!

「バケツを使って分別、ポリ袋を節約」のエコアレマ



2カ月に一度、朝礼が終わった後、仙台塩釜線下りの中野石橋交差点から高柳交差点までの歩道部分のごみを拾っています。社員10~15人が、30分くらい、そろいのジャンパーを着て、バケツと火ばさみを持って行っています。はじめは、仙台市の取り組み(まち美化サポートプログラム)に参加しようという軽い気持ちでしたが、続けてみると意識が深まり、地球環境についてまで考えるようになりました。そのため、ビジネスでもごみの分別をして、少しでも資源を有効利用しようと、努めています。



アレマ隊員インタビュー 第4回

宮城県宮城広瀬高等学校 野球部さん



人の気持ちになって考える。心を鍛えるアレマ活動!

アレマ隊員インタビュー第4回は、宮城広瀬高等学校さん。宮城広瀬高等学校では、生徒さんたちが様々なボランティア活動をしているとのこと。今回は道路の清掃活動を毎日行っている、野球部さんにおじゃましました。お話を伺ったのはボランティア担当の大橋先生、野球部の鈴木監督、部長の佐藤さん。今回は編集部からレポート風にお届けします!

ボランティア担当の大橋先生に案内されて校内に入ると、廊下の向こうに背筋をピンと伸ばし、緊張した面持ちの野球部部長佐藤さんがいらっしゃいました。

「こんにちは!」と、キビキビとした動作の佐藤さんに、こちらも恐縮しながら挨拶をかわし、ちょっと緊張した雰囲気です。

清掃活動は毎朝

「自分自身も、高校時代ボランティア活動をしたことはなかったのですが…」と照れ気味の鈴木監督。監督がこちらの高校に赴任された時には、すでに部員たちによる清掃活動は行われていたものの、「ただやっている」という印象を受けたそうです。「なぜやるのかを理解した上でやらなければ意味がない。心をキレイにするためにやろう。心が汚いと、良いプレーには結びつかない」という信念のもとに、指導を始めたとのこと。

野球部の皆さんは、毎朝7時半から8時10分くらいまで、学校周辺の道路や、練習で迷惑をかけるところ(ファウルボールが飛んでいくあたり)を中心に、30人くらいで手分けをして、広範囲に清掃されているそうです。行事や遠征などで、できない日もありますが、雨の日も雪の日も、基本的には毎日ですとのこと。

受験シーズンの大雪の日には、野球部以外の生徒さんと一緒に、陸前落合駅から広瀬高校までの通学路を中心に除雪活動を行ったそうです。受験生のために先輩たちが除雪してくれたなんて、素敵なお話ですね。



宮城県宮城広瀬高等学校
野球部 部長

佐藤 幸紀さん

プロフィール

現在2年生。昨年キャプテンを経験後、今年度から部長に就任。

清掃活動から得たこと

「ごみがあることに気づくのが嬉しいです。『気づく』ということは、良いプレーにもつながるし、学校生活にも活かされます。先輩から引き継いだ良い伝統なので、後輩にもつないでいきたいです」と佐藤さん。「雨の日も毎日続けるのは大変ではないですか?」と問いかけてみると、「大変だと思うことはありません」とキッパリ。「やらされているのではなく、自分自身の強い心を培うためにしているので、イヤだと思いません」。

ハキハキと答える佐藤さんの姿からは、監督の想いが生徒にしっかりと伝わって、固い絆で結ばれていることが感じられました。

野球以外のところで野球を学ぶ

鈴木監督は、ごみ拾いをするときに「自分がしてもらって嬉しいことをすれば、相手も嬉しい」と、よくお話しするそうです。「野球なら『相手が捕りやすいボールを投げる』ということ。何においても『人の気持ちになって考える』ことが一番大切。それが野球にもつながるんです」と鈴木監督。

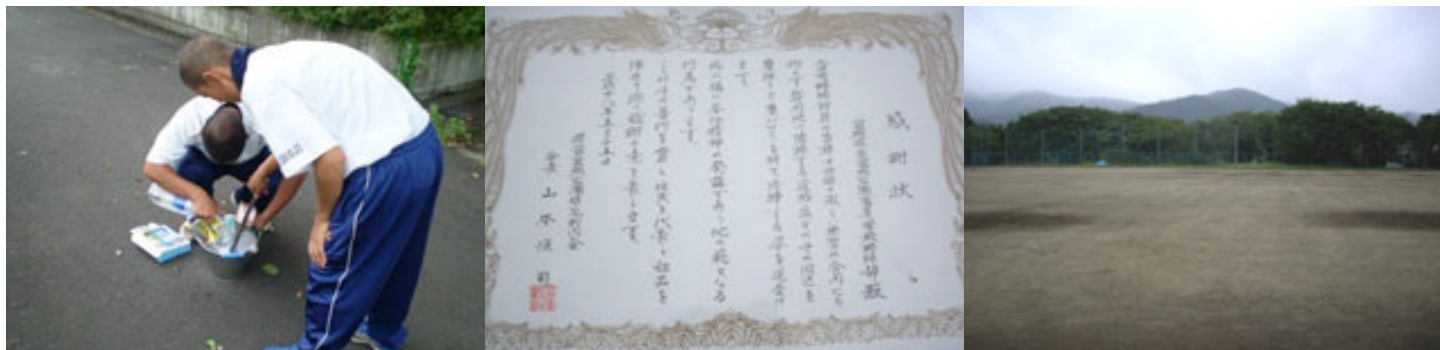
「地域の皆さんの理解があってこそ、野球をさせてもらえています」と佐藤さん。「お世話になっている皆さんのために、私たちができることは限られています。最低限のことはやりたいと思って清掃活動をしています」。平成18年にはその活動に広瀬住宅町内会から感謝状が贈られたとのこと。生徒さんの純粋な想いは、地域の皆さんとの絆もはぐくんでいるのですね。

きれいな心は毎日の生活に現れる

取材の後、練習グラウンドを見せていただきました。広いグラウンドはきれいに整備しており、まるで禅寺のよう。野球部の皆さんが毎日丁寧に手入れをしているので、雑草の種が飛んできて育たないのだそうです。「きれいな心・強い心・人の気持ちになって考えること」が、このグラウンドに現れているようでした。

ボランティア担当の大橋先生によると、周囲にお住まいの方やお店の方、高校近くの病院に通院する方などからも、感謝の言葉がたくさん寄せられているそうです。「生徒たちの心がけは学校生活にも現れています。廊下を歩いても、先生がいれば立ち止まってきちんと挨拶をしてくれます。そういう生徒を見ていると、こちらも頑張ろうという気になるんですよ」と大橋先生。実際、取材のために歩いていた私たちにも、生徒さん達から素敵な挨拶をいただきましたよ。

今回の取材は、心が爽やかに、温くなる想いでした。「人の気持ちになって考える」と言うのは簡単ですが、実際に行動に移されている野球部の皆さんはキラキラと輝いて見えました。監督から生徒に、先輩から後輩に受け継がれた信念がしっかりと根付いた清掃活動は、先生方や地域の方々に温かく見守られて、未永く続けられていくのでしょうか。





岩切iD倶楽部さん（仙台まち美化サポーター）

仲間に「あいでー」。地域交流も担うアレマ活動！

アレマ隊員インタビュー第5回は、岩切iD倶楽部さん。「従来の老人クラブではなく21世紀のあるべき高齢者の会」とのポリシーで発足した、宮城野区岩切ヶ原地域の「元気な高齢者の会」。“まちをきれいにする奉仕活動”のほかに、“生涯学習活動”“健康維持活動”など多彩な活動をなさっています。会長の佐藤文男さんのご自宅におじゃまして、お話を伺ってきました。前回に引き続き、レポート風にお届けします！

取材当日は、爽やかな秋晴れの日でした。編集部取材陣を満面の笑みで迎えてくださった佐藤さんご夫妻。和やかな雰囲気の中でインタビューが始まりました。

岩切iD倶楽部のアレマ活動スタイルは？

「iD」のiは「アイ=私」・愛(あい)、Dはこの地域である「台ヶ原」の頭文字で、読み方は「あいでー」。「仲間に『会いたい』という言葉がなまって『あいでー』なんですよ」と楽しそうにお話ししてくださる文男さん。

アレマ活動は月1回、第一土曜日(当日雨天中止のときは次週土曜日)に行なわれています。活動時間は朝食やその後の用事などに配慮した時間帯に設定し、4月～10月は6時から7時、寒くなってくる11月～12月は9時～10時。およそ25～26人が集まり、5分間軽く準備運動をして、活動開始。原則1時間以内で済ませます。作業が終わった後はお茶や牛乳などで乾杯!みんなで語り合い、笑い合う、楽しく有意義なひとときだそうです。

「3月の総会で12月までの計画を立てて、会員の皆さんに計画書を配るんです。毎月声をかけなくても、みんな自然に集まってきてくれるんですよ」と文男さん。岩切iD倶楽部の活動は、会員の皆さんにすっかり定着しているんですね。

アレマ活動をしていてよかったことは？

「やっぱり達成感ですね。作業を終えた会員の輝いた表情や、笑顔で言葉を交わす姿を見ると、なんともいえない喜びを感じます」と文男さん。道路だけではなく、自分の心もきれいになるとのこと。「みんなで掃除した場所がきれいだって言われると、とても嬉しくてね。それに、自分たちできれいにした道路を自分たちが一番最初に歩いて帰るっていうのは、本当に気持ちがいいんですよ!」と笑子さんも楽しそうにお話しくださいました。

また、岩切iD倶楽部の活動が新聞や市の情報誌などに取り上げられたりすると、会員の皆さんと喜びを共有することができて、励みになるとのこと。そう言っただけだと、編集部も嬉しいです!

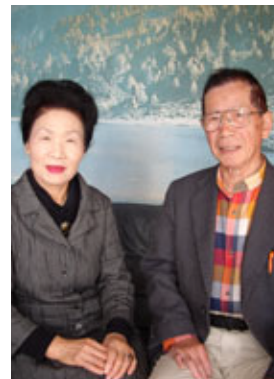
悩みや大変なことはありますか？

ごみを拾った後すぐ、ごみを車から投げ捨てて行ったり、車を止めて灰皿いっぱい吸い殻を道に捨てていく人もいるそう。それでも、「自分たちの道路を自分たちがきれいに、という気持ちで続けます」と文男さん。

また、若い方や子どもたちとも一緒に活動をしたいと考えているものの、なかなか実現できないのも悩みのひとつ。以前、青少年の健全育成につながればと、お子さんの参加を呼びかけたところ、会員のお孫さんが何人か一緒に参加してくれたそうですが、最近では、事故を心配する保護者の方も多く、なかなか参加してもらえないそうです。「干渉しないでほしい、というお宅も増えていますからね。せめて自分の家の前の道路は、ごみを拾ったり雑草を抜いたりしたほうが良いと伝えたいと思うんですが、なかなかね・・・」。もっと地域を盛り上げたい、という想いが強いだけに、悩みも尽きないのですね。

今後やっていきたいことは？

「岩切iD倶楽部を結成して10年になります。会員の高齢化が進んでいますが、お互いに支え合って活動を続けることで、若い世代の皆さんに『次は自分たちが引き継ぐ』と思ってもらえるよう、啓発を兼ねて続けていきたいと思っています」と文男さん。アレマ活動の他にも、地域の皆さんと一緒に学び楽しむ活動を続けたいとのこと。これまでも、お茶会と称して防犯・火災予防・おれおれ詐欺・地元学・健康などのお話を聴く会を催したり、天文台や定義山の見学、子ども会と七夕おどりで交流など、様々な行事を実施されています。「今日もこれから岩切iD倶楽部の行事で秋保温泉に行くんですよ」と笑子さん。皆さんで楽しく交流しながら地域を良くしていくって素敵ですね!



岩切iD倶楽部 会長
佐藤 文男(ふみお)さん
総務
佐藤 笑子(えみこ)さん

プロフィール

ご夫婦。お二人とも仙台市出身。仙台民謡踊り愛好会会長・副会長



柔和な文男さんとお名前のおり笑顔が絶えない笑子さんご夫妻。ご夫婦仲良く、イキイキと地域の活動を続けている姿がとてもほほえましくて印象的でした。お二人共に民謡舞踊の師範でいらっしゃるということで、「体を動かすと心も温まる、ということを多くの人に伝えるのが生きがいなんです」と、とってもパワフル。編集部も元気をいただきました!これからも、ますますお元気で岩切iD倶楽部を盛り上げていかれることでしょう。

アレマ隊員インタビュー 第6回

株式会社日立製作所東北支社さん（仙台まち美化サポーター）



技術でもアレマ活動でも快適な暮らしに貢献!

アレマ隊員インタビュー第6回は、日立製作所東北支社早川さん。日立製作所は、情報通信システム、都市・産業・交通システム、環境・エネルギー等の社会イノベーション事業を通じて、安心・安全・快適な暮らしを社会に提供しています。東北支社では、年に1回の日立グループ挙げてのボランティア清掃活動の企画と、月に1回の支社独自のボランティア清掃活動を行っているそうです。早川さんと総務の牧野さんに、詳しいお話を伺ってきました。

オフィスの受付には操作パネルがあり、案内にしたがって操作していくと、総務の牧野さんに電話につながりました。スムーズかつ洗練されたシステムに「おおっ!」と感嘆の声をあげる編集部。すぐに早川さんと牧野さんが笑顔で出迎えに来てくださって、明るくテンポよく、インタビューが始まりました。

編集部：こんにちは。今日はよろしくお願ひします。さっそくですが、アレマ活動をはじめたきっかけについて教えてください。

早川さん：もともと在仙日立グループに「日立青葉会」という親睦団体がありまして、その中の若い社員から「お世話になっている地域への社会貢献的活動をしよう」と声があがったことがきっかけでした。「日立青葉会清掃ボランティア活動」として2004年に始まり、毎年1回、CSR(企業の社会的責任)の一環として活動しています。

具体的には、日立グループ40社の従業員とその家族約500人が参加し、西公園から仙台中心部までのごみを拾っています。東北の日立グループ活動で最も参加者の多い行事になっています。朝9時に西公園のお花見広場に集まり、スタッフは蛍光ピンク色のジャンパーを、その他の参加者は「HITACHI」と大きくロゴの入ったオレンジ色のベストを着て、火ばさみとごみ袋を持ちます。はじめにオリエンテーションをして、それから会社ごとにわりあてられた担当区域で1時間ほど清掃活動を行います。ふだん顔を合わせない部門の社員と話す機会にもなり、グループ内の連帯感を高めることにも効果を上げています。活動の後、会社によっては芋煮会などを行うこともあります。

牧野さん：大勢の中でもスタッフが一目でわかるように蛍光色のジャンパーを着ています。その他の参加者がロゴ入りのベストを着るのは、市民の方に安心していただくためなんです。以前に、ベストなどを着用せず活動していたら、不審者ではないかと問い合わせがきてしまったもので…。ジャンパーやベストはもともと日立グループの野球部や陸上部などの応援用に作ったものなんです。お子さん達はご両親がベストを着ているのを見て、まねしてみたくなるみたいですよ。小さいお子さんがベストを着ていると、ワンピースを着ているみたいになってしまうのですが、その姿がとっても可愛いんです。

編集部：活動される際も、色々と工夫されているんですね。500人とは、かなり大人数ですよ。

早川さん：「楽しかったから一緒にやろうよ」と声がけをする人たちが出てきて、参加者が増えたんです。

編集部：その他に、東北支社さんとしては毎月1回のアレマ活動をしているそうですね。

早川さん：平成20年に支社が東二番丁スクエアに移転したのをきっかけに、「仙台まち美化サポート・プログラム」に参加して、活動をはじめました。年に1回の「日立青葉会清掃ボランティア活動」の他にも回数を増やしたいという思いがありましたし、新しい土地に仲間入りするためのご挨拶の気持ちもありました。毎月、主に第一水曜日に社員約30人で黄色いジャンパーを着たり、赤い腕章をつけたりして、一番町四丁目周辺の清掃活動を朝の8時から約25分間実施しています。



株式会社日立製作所
東北支社
総務グループ部長代理
早川 勉さん

プロフィール

東京出身。明治大学(法)卒業後、日立製作所入社。2005年10月東北支社に転勤。

編集部：大人数のときは、ゆっくりほのぼのと、少人数のときは仕事モードでできばきと。アレマ活動の楽しみ方2倍!といったところですね!
ところで、大変なことはありますか?

早川さん：ごみが植え込みの中や側溝などに散らばっていて、とても拾いづらく手こずります。たばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルの数がとても多いです。また、ベンチの周りに、宴会でもしていたかのような食べ物の容器が大量にあったり、壊れたビニール傘やフライパン、ストーブなどの不法投棄物もあつたりします。

編集部：色々なものが捨てられていてがっかりですね。活動を始めてから、社員の方々に変化はありましたか?

早川さん：ごみの分別を自主的に行うようになりましたね。それにゴミ拾いをした人は、ポイ捨てをしなくなりますから。自分が出したごみは、自分で片付けるようになりますよ。そういう面では、この活動は良い社員教育になったと思います。

編集部：意識改革も出来て、自分で出したごみは自分で片付けるなど自然な流れが生まれているのですね。やりがいがありますか?

早川さん：はい。清掃活動が終わって、集められた大量のごみを見ると悲しくなりますが、その分街がきれいになったと思うと清々しい気持ちになります。また、遠方からのお客さまから、仙台はきれいな街だとほめられると、うれしく感じますね。

編集部：今後は、どのような展開をお考えですか?

早川さん：街中ではもとより、広瀬川や海岸の清掃、市内での植林など仙台の美しい自然を保つことにも貢献できたらよいと考えています。併せてグループ連携活動も一層活発にしていきたいと思っています。

編集部：素敵なビジョンですね。では、最後にアレマ隊への勧誘メッセージをお願いします。

早川さん：身の回りがきれいな方が気持ちいいと思うのは皆さん一緒ではないでしょうか。ごみを拾ってみると、ごみを適切に処理することの大切さに気づきます。私達もこの活動に参加して、『捨てない輪』を作ることができたと思います。ぜひ、みなさんもアレマ活動をご一緒にいかがでしょう!

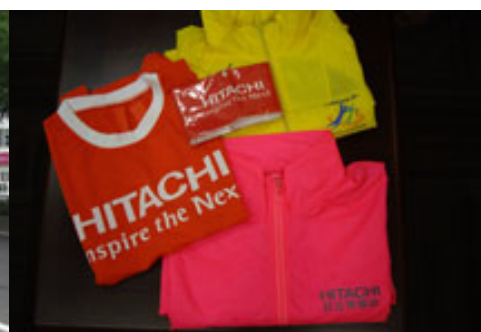
編集部：ありがとうございます。これからも一層活発になる日立グループさんの活動、期待しています!



約500人が集結する「日立青葉会清掃ボランティア活動」



大人用のベストを着たお子さんの可愛い姿、見えますか?



毎月の活動には一番上の黄色いジャンパーを着用。



(株)竹中工務店 東北支店さん (仙台まち美化サポーター)

(株)竹中土木 東北支店さん (仙台まち美化サポーター)

(株)竹中道路 東北支店さん (仙台まち美化サポーター)

理想の社会づくりに、仕事でもアレマ活動でも貢献!

アレマ隊員インタビュー第7回。仙台定禅寺ビルに入居している竹中グループの(株)竹中工務店東北支店、(株)竹中土木東北支店、(株)竹中道路東北支店の皆さんにお話を伺いました。
(株)竹中工務店東北支店さんは2006年から、(株)竹中土木東北支店さんと(株)竹中道路東北支店さんは合
同で2010年から、仙台まち美化サポーターとして活動されています。

(株)竹中工務店東北支店さんのアレマ活動スタイル

編集部: こんにちは。今日はよろしくお願ひします。さっそくですが、アレマ活動を始めたきっかけについて教えてください。

竹中工務店 吉田さん: 2006年6月に会社の環境月間キャンペーンの一環として、当社が入居している仙台定禅寺ビルが面する定禅寺通りの清掃活動を始めたのがきっかけです。

編集部: 活動を始められて4年になるんですね。それでは、ごみ拾いスタイルについて教えてください。

竹中工務店 吉田さん: 年6回、月末の平日朝10時から約30分間、約20人で定禅寺通とその中の遊歩道のごみ拾いをしています。ごみ拾いをするときは、蛍光緑色のベストを着ています。

編集部: 早朝ではなく10時というのは珍しいですね。

竹中工務店 吉田さん: 朝の会議や急ぎの仕事を済ませた後で、集まりやすい時間帯だということが一番の理由です。また、屋間の太陽の光を浴びながら身体を動かすことは、ビルの中にずっとこもって仕事をする部署の社員には、いいリフレッシュになっているようです。

編集部: 及川さんは、ピカピカの社会人1年生なんですよ。入社されてすぐボランティア清掃担当に任命されたそうですが、ご担当されているかがですか?

竹中工務店 及川さん: 最初に参加者として取り組んだときは、ベストを着るのが恥ずかしかったです。その後、まとめ役になってからは、各部署に清掃日を案内したり、清掃ルートを説明したりしています。最初は緊張しましたが、先輩方が意欲的に取り組んでくださるので声かけがしやすいです。

編集部: 大変だと思うときはありますか?

竹中工務店 及川さん: 木の植え込みや遊歩道の花壇に捨てられているごみを回収することや、傘やダンボールなど大きなごみを分別することに苦労します。

編集部: やりがいを感じるのはどんなときですか?

竹中工務店 及川さん: 定禅寺通は、普段歩いていてあまりごみが落ちているのを見かけないのですが、実際に清掃活動を行ってみると、毎回大きなごみ袋がいっぱいになるほどの大量のごみが集まります。集まったごみの多さに驚きつつも、この活動によって定禅寺通がきれいに保たれているという喜びや達成感があります。

竹中工務店 吉田さん: 仙台の四季を感じながら、年間を通して清掃活動を行うのはとても気持ちがいいです。この活動が、きれいな仙台の街並みを維持することにつながっていくと思うので、多くの市民の方々にお勧めしたいと思います。



左から

(株)竹中道路 東北支店長

小田 道夫さん

(株)竹中土木 東北支店総務部長

村山 茂樹さん

(株)竹中工務店 東北支店管理部

及川 はるかさん

吉田 誠さん

(株)竹中土木東北支店さん、(株)竹中道路東北支店さんのアレマ活動

編集部：竹中土木さんと竹中道路さんは、今年の4月からまち美化サポーターとして活動をお始めになったそうですね。

竹中土木 村山さん：以前から、大がかりな河川の草刈りや清掃、休耕地の種まき等をしていたのですが、昭和21年8月に出張所として開設してから64年になり、地域への恩返しの意味で、継続的に出来るものはないかと話していました。そのとき、社員から「こんな活動がありますよ」と提案があり、「平凡けどまずはやってみよう」という意見が多かったため、2010年の4月から竹中道路さんと仙台まち美化サポート・プログラムに参加しました。身近なことから取り組んでいかないと本当の社会貢献になりませんよね。

竹中道路 小田さん：私たちも、同じ考えで始めたのですが、皆さんの税金で仕事をさせていただいているので、感謝の気持ちを込めて活動しています。加えて「道路はごみ箱ではない!」ということを強くお伝えしたいです。

編集部：道路を作っている方ならではのお言葉ですね。ごみを道路や公共の場所に捨てるということは、道路や建物などを一生懸命つくってくださる方々に、とても申し訳ない行為だとあらためて気づきました。続いて、ごみ拾いスタイルについて教えてください。

竹中土木 村山さん：竹中土木と竹中道路の合同で、人数は10人弱。原則毎月第3火曜日の朝8時から約30分、東京エレクトロンホール周辺と晩翠通の一角のごみ拾いをしています。ごみは、車道側に落ちていることが多く、安全対策のためにも蛍光黄色のベストを着ています。

編集部：ごみ拾いは、つい夢中になってしまいがちなので、やはり安全対策は大事ですね。大変だと思うときはありますか？

竹中道路 小田さん：今年(2010年)の夏は特に暑かったため、ベストを着ただけで汗が出ましたが、やはり安全面などを考えて、ベストを着て活動しました。

竹中土木 村山さん：夏は熱中症対策として水分をとり、これからは寒くなってくるので風邪をひかないよう注意しています。

編集部：健康第一ですね。やりがいを感じるのはどんなときですか？

竹中土木 村山さん：本当はごみがないほうが良いのですが、やっぱり、集めてきたごみが袋いっぱいになったときにやりがいを感じます。でも、それで自分たちも普段の何気ない行いに反省させられることが多くあります。捨てている方たちは、あまり考えないでそうしているのでしょうね。

竹中道路 小田さん：私たちは始業前の朝の清々しい空気の中活動しています。身の引き締まる思いがしますね。ものの見方が変わり、住んでいる地域への愛着も出てきました。

編集部：最後に、今後行っていきたいことを教えてください。

竹中工務店 吉田さん：なるべく多くの社員がこの活動に参加できるように、今後も定期的開催し、積極的に取り組んでいきたいです。転勤の多い会社なので、東京や大阪から来た社員も、この活動に参加することによって、仙台に愛着を持ってくれるのではないかと少なからず期待しています。

竹中土木 村山さん：当面はこの活動を続けていき、さらに地域の方々に貢献したいと考えています。

編集部：竹中グループの皆さんは、仙台の街や道路を大切に思っているんですね。今日は、ありがとうございました。

参加しやすい時間に活動を行う竹中工務店さん、竹中工務店さんとは別の日に2社合同で活動される竹中土木さんと竹中道路さん。別な日に活動されるのは、清掃回数が増えたほうが、より美しい定禅寺通りを保つことができるからとのこと。3社の活動の様子を写真で拝見すると、立場や年齢に関わらず、一丸となって取り組んでいる様子が伝わりました。こういう場でのコミュニケーションが竹中グループさんの社会貢献への意識をさらに深めているのかもしれないね。



竹中工務店のみなさん



竹中土木と竹中道路のみなさん



快くモデルになってくださった
竹中土木の村山さん



オカミサン達がんばる! たばこ屋さんのアレマ活動

仙台たばこ販売協同組合(以下「組合」)は、仙台市の「仙台中央地区たばこのポイ捨て防止キャンペーン」への協力をはじめ、ポイ捨て防止の活動に積極的に取り組まれている団体です。組合女性部副本部長であり女性部南部第二支部の支部長でもある、佐藤豊子さんにお話を伺ってきました。

佐藤豊子さんは、組合としてアレマ活動をされているほか、違反広告物の除却ボランティア「ザ・ビラトルズ」の活動、経営しているコンビニで取り組む「こども110ばんの店」など、その他にも様々な分野で地域貢献をされています。コンビニ前に置かれた灰皿には、「ポイ捨てをしないでくれてありがとう」というステッカーが貼られていました。お客さまを優しく迎えるさりげない心配りを感じながら、事務所におじゃましました。

編集部: こんにちは。今日は、よろしくお願いたします。早速ですが、活動をはじめられたきっかけについて教えてください。

佐藤さん: 私たちは、たばこを販売していますので、たばこの吸い殻のポイ捨てや未成年者の喫煙が気になり、組合女性部としてできることをしようと考えたのがきっかけです。

編集部: どのくらい前から始められたのですか。

佐藤さん: 私自身は、平成4年から参加したんですが、組合女性部としては、昭和55年から始めています。

編集部: 約30年前から活動されているんですね!具体的にはどのような活動をされているのですか。

佐藤さん: 組合全体としては、アレマキャンペーンの「仙台中央地区たばこのポイ捨て防止キャンペーン」に参加しています。南部第二支部としては、太白区民まつりに合わせて太白区役所周辺を、お花見の時期には三神峯公園の清掃を行っています。三神峯公園の清掃活動は支部の総会も兼ねていて、お昼にお膳をいただくんです。みんな、それがとっても楽しみなんですよ。

活動の際には、組合指定の緑の帽子とエプロンをつけて、ごみ拾いをしながら、ポイ捨て防止の啓発メッセージを入れたティッシュを配っています。

編集部: 様々な活動をされているんですね。南部第二支部の皆さんは何人ぐらいいらっしゃるのですか。

佐藤さん: 南部第二支部は西多賀・鹿野・富沢などの区域の販売店が会員で現在23人くらいですね。近年の「taspo」の導入やたばこの値上げ等の影響で閉店してしまう店もあり、会員が減少してきているんです。活動に参加できるオカミサンが以前の半分以下になってしまいました。

編集部: 社会の変化によって色々影響があるんですね。美化活動を続けるなかで、大変だと思うことはありますか。

佐藤さん: 大変なことは特にはないです。会員が協力的なので活動を続けられるんですよ。私は、支部長をしていますが、会員の皆さんが支えてくれるので、とても助かっています。

編集部: 素晴らしいですね。やりがいを感じるのはどんな時ですか。

佐藤さん: 三神峯公園がきれいで、こんなに良いところがあったんだね、と言われると嬉しいです。公園でごみ拾いをしていたら、中学校の陸上部の先生が生徒さんたちに声をかけてくださって、みんなで一緒に活動できたのも嬉しかったです。良い情操教育にもなりますよね。それから、お店でたばこを買ってくださるお客さまは私たちの顔を覚えていらっしゃるの、「オカミサン、ごくろうさん!」と声をかけてくださるんですよ。



仙台たばこ販売協同組合
女性部副本部長
女性部南部第二支部 支部長
佐藤 豊子さん

プロフィール

宮城県名取郡生まれ。佐藤乳業(有)とコンビニを経営。昨年金婚を迎える。

編集部：清掃活動によって、様々な出会いやふれあいがあるんですね。

佐藤さん：そうですね。清掃活動は私たちの行事の一つとして行っているので、会員と顔を合わせて情報交換をする機会にもなるんですよ。太白区民まつりの清掃では、JTの社員さんもお子さんを連れて参加して下さったりするんですよ。

編集部：組合の他にもたばこに関係する方々が積極的に活動されているんですね。積極的な活動には、愛煙家への目が厳しい世の中だからという理由もありますか。

佐藤さん：そうですね…。私はたばこを吸わないんですが、たばこにもいいところがあると思っていますんですよ。ホッと一息つくことができるとか…。でも、ポイ捨てしているのは吸っている人なんでもんね…。たばこを販売している者として、できることからしていきたいと思っています。活動に参加するには、お店を閉めたり、店番を頼んだりしなければならいんですが、多くの会員が参加してくれています。

編集部：皆さんの想いが愛煙家の方々にも、たばこを吸わない方々にも広く認めてもらえると良いですね。今後行っていきたいと思うことはありますか。

佐藤さん：会員は減少していますが、皆で力を合わせて、愛煙家のマナー向上のためにも今の活動を続けていきたいと思います

編集部：ありがとうございました。今後も、オカミサン達の活躍期待しています！



アレマ隊員インタビュー
(平成22年7月～平成23年2月)
平成24年12月発行
発行 仙台市環境局廃棄物管理課
〒980-0811
仙台市青葉区一番町四丁目7番17号
TEL022-214-8250
FAX022-214-8277